3年間を振り返って －前例踏襲は打ち破れたか?－ 全3回

東海会の皆さん、こんにちは。私たちの執行年度も残りわずかとなりました。この会長報告のコーナーでは、東海会に関する事業や情報等を、できるだけ「早く」「わかりやすく」「親しみやすく」、皆さまにお伝えしようとしてきました。

いよいよ、最後の3回となりましたので、最後の3回は「3年間を振り返って―前例踏襲は打ち破れたか？―」というテーマで、3年間、毎月の役員会・正副会長会議等の前に、「総務ミーティング」で方向性について一緒に悩んでくださった、伊東和男副会長、氏原亜由美総務部長、そして浅野寿美事務局長との対談を企画しました。

私たちが、3年間でやろうとしてきたこと、やり残したこと等をお話ししたいと思います。感想やご意見等がございましたら、私たちまで頂けましたら、とても嬉しいです。

3年間、本当にありがとうございました！！

◆ 第1回目は、伊東和男副会長です。

「前例踏襲を打ち破れ」というキャッチコピー誕生秘話や、稲垣と伊東さんが東海会でやりたかったこと等について話が盛り上がりました。

1.「前例踏襲を打ち破れ」について

稲垣：「前例踏襲を打ち破れ」は、伊東さんが、名古屋大会2024の「統一テーマ」として考えてくださったものでしたね。

振り返ってみると、この言葉が、我々の3年間の「統一テーマ」になりましたね。名古屋大会2024以降、この言葉が、本部でも他の16地域会でも、「東海会のめざすもの」として、すっかり定着・浸透しましたね。

伊東和男副会長

伊東：定着・浸透したとすれば本当に嬉しいです。

この言葉は、名古屋大会2024用に作ったのですが、「研究大会用」というよりは、日頃、自分の仕事や行動に関して、考えていることを言葉にしただけなのです。

時代の変化に合わせて「破壊、創造、継承」をするためには、前例踏襲をしていては「破壊」は起きません。いつも「前例踏襲は衰退の始まり」と考えるようにしています。

なかなか「言うは易く、行うは難し」ですけどね、、、、

2. 東海会の事業計画について

伊東：稲垣さんも、2021年11月に次期の東海会会長に決まった際に、自分たちの3年間の最初の事業年度（2022年4月～2023年3月）の事業計画（基本方針、重点施策、事業の大綱）を作成する時から、「前例踏襲」を打ち破っていましたね。

稲垣：会計士協会は6月の総会で新しい役員が選任されるのですが、その年の事業計画や予算は4月からスタートしています。その事業計画や予算を、6月で選任される役員が主導して作成しなければ、最初の1年間は、前役員が作成したものをやっていかなければなりません。

また、3年目の最終年度の任期も4月～6月までですので、任期は、実質的には2年と3か月しかありません。これでは、腰を据えて重要施策をすることはできません。

そこで、これを打破すべく、2021年11月に次期会長に決まった時に、当時の久松会長に次年度の事業計画（案）と予算（案）を次期役員主導で作

成することをお許しいただきました。

伊東：稲垣さんが作成された事業計画（案）は、内容的にも前例踏襲を打ち破っていましたね。

稲垣：ありがとうございます。これまでの、事業計画の中身である基本方針、重点施策、事業の大綱は、原則として、前期までのものを引継ぎ、それに自分のやりたいことを付け加える、という形で作られてきました。

そのため、時代の流れに合わなくなったもの、すでに役割を終えたもの等が残されていました。また、地域会として取り組むべきことで織り込まれていないものもありました。

これを、手塚会長時代の2022年に協会本部が作成した「ビジョンペーパー 2022　日本公認会計士協会の進むべき方向性」の中の、「将来ビジョン及びその実現に向けた方向性」に記載されていた以下の3つの視点で東海会の各事業を整理しなおしてみようと考えました。

1. 公認会計士の活躍の場の拡大
2. 監査業務の再評価
3. 上記を支える日本公認会計士協会の機能強化

伊東：この協会本部の「ビジョンペーパー 2022」は今でも色あせておらず、時代の流れに合っていますよね。

それを受けた東海会の基本方針、重点施策、事業の大綱も、地域会が取組むべき事業が、わかりやすくまとまっていると思います。

前例踏襲という言葉は研究大会のテーマを考えるときに出てきたキーワードですが、我々の任期の始めから実践されてきたのだと改めて感じます。

ビジョンペーパー2022

JICPAホームページURL：
https://jicpa.or.jp/specialized_-field/20220309ibd.html

3. 二人が東海会でやりたかったことについて

伊東：ところで、そもそも、稲垣さんはどうして東海会の会長になろうとしたのですか？東海会で何をやろうとしたのですか？

稲垣：私自身、自分が東海会の会長になったこと自体が、「前例踏襲を打ち破った」のではないかと思っているのですが、、、、

私は、大手監査法人を退職し、個人事務所をやってきましたが、会計士協会の活動に距離を置いていました。

ですので、東海会を含めた協会歴が短く、完全な素人でした。しかし、そのために「フレッシュアイ」で見ることができたのではないかと思います。

私は、「やる以上は全力で」がモットーなので、東海会に参加するようになって、「これをやるべき」「もっとこうしたい」「これはやめよう」とか一生懸命にやっていたら、気が付いたら会長をやることになっていました。

伊東：稲垣さんは「会長になったらこれをやろう」とか、考えていたことがあったのですか？

稲垣：会長になることになって、まず考えたことは「ここが会社だとしたら、自分は会社のリーダーとして何をやらなければならないか」とうことでした。

少し前までの自分自身もそうでしたが、「東海会の活動に参加してもメリットがない」「費用対効果が合わない」「興味がない」と思っていらっしゃる会員が多いのではないか、と考えました。

短いですが、東海会の活動に参加して、ハロー！会計をはじめ、とても有意義な活動をしていますが、これが東海会の会員や対外的にも伝わっていません。そこで、まず、「対内・対外広報の強化」が必要と考えました。

また、東海会事務局にも課題が多いと感じており、東海会の活動の活発化には、事務局の機能強化が必要と思いましたので「事務局の働き方改革」も必要と考えました。

伊東：なるほど。私は副会長になるにあたって、執行部は東海会会員のために行動すべき存在であると思いスタートしましたので、稲垣さんの考えと通じるものがあります。

より多くの会員の参加を促す事業がやりたかったですね。今まで参加したことがない会員や若い会員たちが、東海会の活動に参加して下さるようにしたかったです。

4. 思い出の事業について

稲垣：伊東さんの言われた「東海会の会員の参加を促す事業」として思い出深い事業は何でしょうか？

伊東：「青年部」の創設、「女性会計士」や「組織内会計士」の活躍支援等は地味ですが、自分としては力を入れてやったつもりです。

また、「東海会オフィスのリノベーション」も、

今まで東海会に来たことがないような会員が東海会オフィスを使ってくださるようになり、リノベしてから今日までの１年半で延べ5100人以上もの大勢の会員にご利用いただきました。「名古屋大会2024」もある意味たくさんの東海会の会員の参加を頂きたいというイベントでした。

稲垣：考えてみると、東海会の重要事業は全部、伊東さんが仕切っていましたね！

私は、「東海会CPAニュースの進化」ですね。私は、これを会員への「対内広報」の最重要ツールと考えていました。ですので、東海会の活動を、「迅速に」「わかりやすく」「親しみやすく」伝えることを目指しました。

具体的には、まずは、「会長報告」のコーナーを、会員の方に読んでいただけるようなものにすることにエネルギーを注ぎました（毎月、原稿期限が近づいてくると、少し鬱になりそうでした）。

お気づきになった方もいらっしゃると思いますが、稲垣の顔写真は、季節等に合うように、3年間、毎月違うものにしました。

また、東海会の活動等に関する報告記事の、企画、内容、写真（写真に写っている人の名前を記載する）等にも気を使いました。

合わせて、良い記事になるためには、良い事業をしなければなりませんので、各委員会の皆さんには、役割を終えた事業の廃止と、ニーズのある事業の企画・実行をお願いしました。

「いやぁ、毎号大変だった！」と稲垣さん（事務局）

最近「東海会CPAニュースがとても良くなったね」と言っていただける機会が何度かありましたが、これらのみんなの努力が、対内広報としての「東海会CPAニュースの進化」に繋がったのだと考えています。

対外広報としては、東海財務局長の経済講演会の復活、東海・名古屋税理士会との連携強化、日本経済新聞社名古屋支社とのコミュニケーション等、いろいろと取り組みましたが、まだまだ「志半ば」という感じになってしまいました。

5. 最後に

伊東：とても忙しく、大変な3年間でしたが、楽しかったですね！！

稲垣：本当に申し訳ない！！でも、ありがとう！！！

〝Building trust,empowering our future〟を背景に